

元検事の熊崎氏  
招き時局講演会

宮坂建設工業

宮坂建設工業(帯広、宮坂寿文社長)は4日、市内の北海道ホテルで元東京地方検察庁特捜部長で日本プロ野球組織コミッショナー顧問の熊崎勝彦氏(76)を招いた時局講演会を開いた。

テーマは「私の検事時代とその後を振り返って思うこと」。市民ら約800人が来場し、宮坂社長が「今年札幌で開いた講演会にお招きした際もお話が面白く、『ぜひ帯広でも』とお願ひしたとあいさつした。熊崎氏は1942年岐阜県下呂市生まれ。65年に明治大学法学部法律学科を卒業し、72年検事に任官。2004年に最高検察庁公安

講演する熊崎氏



部長で退官した。同氏は岐阜出身の高山良三元衆院議員に憧れて法律家を志したエピソードを披露。また、金丸信元衆院議員の脱税事件や大蔵省接待汚職事件に関わった経験から「白を黒にするような権限は検察にはなく、証拠主義に基づき見極めるのは口では言えないほど難しい」と振り返った。

2014年から3年間コミッショナーを務めた日本プロ野球組織では、統一球や野球賭博問題にも携わり、「ファンに喜ばれる、ファンを支えてもらうことが原点」と強調した。

(長谷川正人)

熊崎氏が特捜部  
時代振り返る

宮坂建設工業  
時局講演会

【帯広】宮坂建設工業(本社・帯広)は4日、帯広市内の北海道ホテルで時局講演会を開いた。元東京地検特捜部長で日



本プロ野球組織元コミッショナーの熊崎勝彦氏が講師を務め、特捜部時代に金丸信元自民党副総裁脱税事件や大蔵省接待汚職

事件に関わったエピソードを披露した。写真。同社では社会貢献の一環として時局講演会を毎年、札幌などで開いており今回で14回目、帯広での開催は2回目となる。

この日は、同社社員や一般市民ら約800人が集まった。

熊崎氏は東京地検特捜部長や最高検察庁公安部長など歴任。退官後は日本プロ野球組織コミッショナーに就任し現在は顧問を務めている。

特捜部時代を振り返り、「悪を逃すわけにはいかないが、白を黒にすることは人権侵害になる。白と黒を見極めることが検事にとって厳しいところ」と強調。「動かない事実がどこにあるのかきちんと見極めるのが捜査の基本」とし、丹念に証拠を集め事実の究明に徹したことを話した。

# 心で対処することが大切

宮坂建設工業が時局講演会

## 元検事が当時の経験語る

【帯広発】宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は4日、帯広市内の北海道

ホテルで時局講演会を開催した。一般市民や建設業関係者など800人が来場。元東京地方検察庁特捜部長、元日本プロ野球組織コミッショナーで、現在は弁護士として活躍を続ける熊崎勝彦氏が「私の検事時代とその後を振り返って思う



800人が参加のもと、元東京地検特捜部長の熊崎氏が講演した

こと」と題して講演した。熊崎氏は、最初に自身の生い立ちや検事を志した経緯を紹介した。このあと検事時代を振り返り「白か黒か見極めるのは非常に難しいこと。黒を逃すわけにはいかないが、

白を黒にしてしまうのも大問題となる。この見極めが検事が一番難しいところで、検事はそのために事実の究明に力を注ぐ」と説明。こうした考えをもって、多くの事件に携わってきたことを紹介した。また「どんな商売にも共

通するが、人の心を動かすには心しかない。人の共感を呼び起こすには心で対処するしかない」とし、当時の経験から信頼関係が大切であることも訴えた。

同社主催の時局講演会は、2008年から11年連続14回目の開催。熊崎氏はことし7月に札幌市内で行われた時局講演会でも講師を務めたが、講演があまりにも好評だったため、急遽帯広でも開催する運びとなった。